

2022 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	梶原江美	職名	教授	学位	修士(看護学)(佐賀医科大学 2003 年)
----	------	----	----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
基礎看護学 看護教育学	ラテックスアレルギー 看護基礎教育 看護技術 コミュニケーション

研 究 課 題
ラテックスアレルギーの予防に関する研究 看護基礎教育における効果的な教育方法に関する研究 ケアリングに関する研究

担 当 授 業 科 目
看護技術論演習 (前期)(看護学科) 生活援助技術論演習 (後期)(看護学科) ヘルスアセスメント演習 (後期)(看護学科) 診療関連技術論演習 (前期)(看護学科) 看護過程論 (前期)(看護学科) 早期看護実習 (前期)(看護学科) 基礎看護学実習Ⅰ (後期)(看護学科) 基礎看護学実習Ⅱ (前期)(看護学科) 看護総合演習 (前期・後期)(看護学科) 看護総合実習 (前期・後期)(看護学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【看護技術論演習】 看護技術論演習は、看護実践の基本となる「感染予防技術」、「ボディメカニクス」、「体位保持」、「環境調整技術」、「コミュニケーション」、「記録・報告」からなる1年次前期必修科目1単位で講義と演習形式で行う。学生を取り巻く環境としては、①入学して初めて看護について学び始める、②コロナ禍での対面授業である、の2点が挙げられる。そのため、感染対策に注意しながらも、講義時には発問をして自分の意見を述べる時間や演習で学生間のコミュニケーションをとりながら実施できるよう配慮した。また、初回講義時に、看護用語について学習するきっかけを作り、「感染予防技術」、「ボディメカニクス」、「体位保持」、「環境調整技術」「コミュニケーション技術」、「記録・報告」と段階的に学修を組み立てた。また、①看護援助を行う際の自身の安全を守るボディメカニクス、②気遣い・配慮といったケアリングの基本、③他者と協力しながら看護技術を学ぶ必要性の学修にもつながるようベッドメイキングの実技試験を取り入れて、学修の機会とした。授業評価によると、自発的学習に取り組んだ学生は81.8%を占め、肯定的な意見も聞かれた。今後は、学修進度に並行して学生の自発的学習態度が維持できるよう努めたい。
授業科目名【生活援助技術論演習】 生活援助技術論は、「活動」「睡眠・休息」「褥瘡予防」「清潔」「食事」「排泄」からなる1年次後期必修科目2単位で講義と演習形式で行う。学生を取り巻く環境としては、①前期の「看護技術論演習」に引き続いて、具体的な生活援助方法としての看護技術を学修する、③学生自身が毎日営んでいる日常生活行動が学修内容に直結する、②後期の看護技術関連の演習として「ヘルスアセスメント演習」が並行する、の3点が挙げられる。

そのため、まずは日々の生活の中で自身の日常生活行動を振り返ることから始めた。そして、疾病や障害を持って自立した生活行動ができなくなった場合の援助方法のひとつについて、相互演習の形式で演習を行った。 ①予習として動画視聴、技術の整理を入れる、②演習開始時に援助の要点整理を行う、③演習中に援助の細かな動きや要点の補足説明とデモンストレーションを行う、学生が実際にやってみての質疑応答の時間をとる、④意見交換などを通してピアラーニングの実施をした。各単元の学習後は、統合型演習として、2 事例の看護援助についてグループで計画立案をし、そのうち 1 つを実技試験項目として実施、全体にフィードバックを行った。知識面では、関連の国家試験問題や要点整理の資料を配付し説明を加えた。
授業科目名【ヘルスアセスメント演習】 ヘルスアセスメント演習は、1 年次後期必修科目 1 単位で講義と演習形式で行う。内容は、ヘルスアセスメントの意義と「生きている」ことをアセスメントするうえで必要となる「循環器系」「呼吸器系」「消化器系」、「生きていく」ことをアセスメントするうえで必要となる「感覚器系」「中枢神経系」「筋・骨格器系」のフィジカルアセスメントである。必要に応じて、演習指導や実技試験の評価を通して、看護形態機能学の知識に基づいたアセスメントの考え方を説明し、理解を深めていけるよう努めた。また、実技試験項目であるバイタルサインは、技術面として①コロトコフ音の聴取、②減圧時の指の巧緻性、③値の読み取りが学生の苦手部分となるため、個別で丁寧な指導をするよう心がけた。
授業科目名【診療関連技術論演習】 診療関連技術論演習は、2 年次前期必修科目 2 単位で講義と演習形式で行う。必要に応じて、演習指導や実技試験の評価を通して、看護形態機能学の知識に基づいたアセスメントの考え方を説明し、理解を深めることができるようにした。また、注射の演習では、無菌操作の重要性、針刺し事故を回避する安全策など学生の確実な手技につなげられるよう少人数を同時進行しながら説明や指導を行った。
授業科目名【看護過程論】 看護過程論は、2 年次前期必修科目 2 単位で講義と演習形式で行う。グループワークで、6 名/G で構成される 3 グループ 18 名を担当し、事例を基に一連の看護過程を展開するうえでの基本的な考え方や方法を教授した。この科目は、基礎看護学だけにとどまらず、その後の各領域別実習でも共通の思考過程をたどる。また、看護過程の思考過程が身につくと、看護実践が面白くなるという要素がある。そのため、学生の苦手意識を最小限にし、グループでわからないことをわからないと言える雰囲気づくりと学生が進度に合わせながらめ切を設けて、個別もしくはグループでの指導を行った。
授業科目名【早期看護実習】 早期看護実習は、1 年次前期必修科目 1 単位の実習形式で行う。看護の対象者の療養環境を知り、生活を整える意味について考える機会とする。また、看護師と患者のコミュニケーションを通して、看護におけるコミュニケーションの在り方、看護学生に求められる態度や姿勢についても学ぶ機会とする。病院実習を担当し、学生の動機づけを行った。
授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】 基礎看護学実習Ⅰは、1 年次後期必修科目 1 単位の実習形式で行う。COVID-19 の影響により、病院での臨地実習ができなかったため、学内での実習を行った。学生は、2 事例のうちの 1 事例に対して実習を行う。普段接することのない人を模擬患者として、コミュニケーションをとる中で自身の傾向をプロセスレコードで振り返り、関係構築に必要な要素や対象者に必要な援助について考えることができるように支援した。
授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 基礎看護学実習Ⅱは、2 年次前期必修科目 2 単位の実習形式で行う。COVID-19 の影響により、病院での臨地実習と学内での実習と併用した形式だった。病院での実習では、時間制限もあり、感染予防の徹底と臨地実習の緊張が強かったため、学生の不安の軽減を図りつつ実際に療養生活を送る受持ち患者の看護について、実習指導者と調整を図りながら実習指導を行った。学内の実習では、3 事例のうち 1 事例を学生は受け持って実習をし、普段接することのない人を模擬患者として、電子カルテで情報を取り時間を区切ってコミュニケーションを取り全体像を描写、看護問題を挙げて計画立案し、援助を実施するという一連の看護過程の思考が整理できるよう助言、支援した。

授業科目名【看護総合演習】

看護総合演習は、4 年次前期・後期必修科目 2 単位の演習形式で行う。ゼミ生 5 名に対して、看護総合実習に向けて、テーマ選択から文献収集、文献を用いた抄読会を実施し、計画立案の指導を行った。また、実習後は、シミュレーターを使ってフィジカルアセスメントの復習をすることや実習成果の発表に向けた資料準備などを行った。併せて、次年度は看護師として働いていることを想定した意識づけや国家試験対策についても支援した。

授業科目名【看護総合実習】

看護総合実習は、4年次前期・後期必修科目2単位の実習形式で行う。ゼミ生5名が看護総合演習で立案した計画を基に、病院での実習もしくは学内での実習を行った。学生が自ら実習の中で看護師と調整をする、多職種との連携を考える機会とするなど目的意識を持って自ら学ぶ実習にすることを目指して支援した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会会員	選挙管理委員会委員（2021 年 7 月～2023 年）	1996 年 4 月～現在に至る
日本看護研究学会会員		2000 年 9 月～現在に至る
日本看護科学学会会員		2003 年 3 月～現在に至る
日本看護診断学会会員		2003 年 5 月～現在に至る
日本看護学教育学会会員		2005 年 4 月～現在に至る
日本看護技術学会会員		2010 年 4 月～現在に至る
日本看護倫理学会会員		2011 年 2 月～現在に至る
STTI 会員		2011 年 12 月～現在に至る
日本看護管理学会会員		2012 年 7 月～現在に至る
日本ラテックスアレルギー研究会会員		2015 年 4 月～現在に至る
特定非営利活動法人日本コクラ ンセンター		2019 年～現在に至る
日本看護福祉学会		2018 年 5 月～現在に至る
日本医療・病院管理学会		2020 年 2 月～現在に至る

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) 『月刊アレルギーの臨床』2022年5月号 看護師のラテックスアレルギーに関する知識獲得の必要性	単著	2022年5月	北隆館 アレルギーの臨床 42 (5) P.48-P.53 (通巻 569 号)	即時型アレルギーであるラテックスアレルギーについて、医療従事者への周知は進んでいるものの具体的内容は不明瞭かつ個別に差が大きい。 看護師のラテックスアレルギーに関する知識内容について整理し、ラテックスアレルギー予防の啓発の機会とした。
メディカ出版看護師国家試験模擬試験執筆	単独	2022年度	メディカコンクール	数回にわたり、出版社から国家試験対策模擬試験問題の依頼を受け、基礎看護学に関して出題し、解説を行った。
研修会講師： 私が意識した科研費獲得の紹介	単独	2022年8月9日・10日	西南女学院大学 外部資金導入プロジェクト 科学研究費補助金の採択に向けて	西南女学院大学外部資金導入プロジェクトの取り組みで実施された研修会の講師を務めた。対象は、過去に科研費の申請経験のある准教授・講師である。科研費獲得に向けた要点を3つに絞り講演した。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
ラテックスアレルギー予防に向けたタンパク質フリー天然ゴム素材の開発	文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究 (C)	4,290,000 円	

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
大学委員会：入学試験委員会委員 学科役割：1年生アドバイザー 学科プロジェクト 4年生アドバイザー その他：西南女学院大学保健福祉学部設置 30 周年キックオフ特別講演会（2022. 11. 23） 実行委員